

教材・教具の紹介

自分の気持ちを簡単表情カードを使って表わそう！
「今、どんな気持ち？簡単表情カード」

高橋 雅子*

1 はじめに

特別支援学級の子どもたちには、相手の気持ちを押し量ったり、自分の気持ちを人に伝えたりすることが苦手なケースが多い。そのため、友だちとのかかわりのなかで気持ちをうまく伝えられず、相手と気持ちの行き違いがおこることもある。また、子どもたちの中には、自分が今どんな気持ちかわからない場合も多く、言葉にして伝えることに困難さを感じている様子も見られる。

それゆえに、特別支援学級の子どもたちが「自立活動」や「生活単元学習」の中で、コミュニケーションする力を高めたり、自己理解を深めたりする学習を行うことは、とても大切なことである。しかし、知的障がいのある子どもたちには、自分の感情を言葉にするのが難しいため、手掛かりとなる教材・教具を工夫する必要がある。

そこで、自分の気持ちを考えたり、気づいたり、伝えたりするための手掛かりとして「今、どんな気持ち？簡単表情カード」を作成した。知的障がいのある子どもたちが、絵に描かれた表情や言葉をもとに、自分の気持ちと合うものを選び、それを手掛かりに言葉で友だちに自分の気持ちを伝えることができるようになることを考えた。また、自立活動において、自分の気持ちを言葉にして言う学習を繰り返し行うことによって、そのスキルを日常生活でも活用することができることを期待している。

2 「今、どんな気持ち？簡単表情カード」の概要

1) 材料

色画用紙（ピンク4つ切り2枚、他5色若干）、大阪府人権教育研究協議会作成「いまどんなきもち？」ポスターのコピー、ラミネート、リング3個、割り箸1膳

2) 全体の形状と製作のポイント

(1) 小学校低学年用の簡単表情カード

小学校低学年の子どもに使用する表情カードは、目と口だけ描かれた顔のカードにする。顔の形に合わせた直径10cmの丸いカードである。同じ表情の絵を2枚貼り合わせて、両方向から見てわかるようにした。

2種類製作した。一つは、授業中に手で持って表示できるように、割り箸付きの両面に表情カードを張ったものである（写真1）。

もう一つは、日常生活へ般化できるように、日常持ち歩くことのできるように、リングを付けた表情カードである（写真2）。

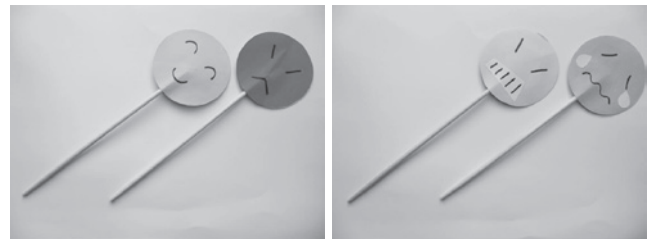


写真1 割り箸付きの簡単表情カード



写真2 リングつき簡単表情カード

(2) 小学校中・高学年用の表情カード

中・高学年の子どもに使用する表情カードは、大阪府人権教育研究協議会作成「いまどんなきもち？」のポスターのコピーを切り取って作った顔と言葉のカードである。

縦15cm×横10cmの四角いカードである。表情を表す顔だけのカード16枚（写真3）と顔に表情を表す言葉がついたカード16枚（写真4）と2種類製作した。両方ともリングをつけてあるので、持ち歩くことができ、自分の気持ちを伝えたい時にいつでも使うことができる。



写真3 顔だけの表情カード16枚

* 上越教育大学大学院学校教育研究科



写真4 言葉つき表情カード16枚

始めは、言葉がついたカードのほうが選びやすいが、慣れてきたら顔だけのカードから選ぶようにし、自分なりの言葉をつけて言えるようにする。また、16枚では多すぎて選べない子には、16枚のカードからあらかじめ数枚選んで、枚数を少なくして使用する。

3 簡単表情カードを使用した生活単元学習の実践例

小学校特別支援学級（知的、自閉情緒学級合同授業）の生活単元学習で、単元「自分の気持ちを伝えよう～いくぞ！なかよしマン～」において使用した。対象児童は、1年生2人、2年生3人、3年生1人、4年生5人、6年生1人、計12名であった。低学年から中・高学年にわたる児童であること、知的障がいのある児童が多くいることから、目と口だけの簡単な表情の割り箸付きの簡単表情カード（写真1）を使用した。

子どもたちは、これまで、自分らしさを大切にしながら、自己肯定感を高め、互いに認め合い、かかわり合うことの楽しさや大切さを学習してきた。しかし、友だちに嫌なことをされたときに、黙って我慢したり、気持ちをうまく伝えることができずにトラブルとなったりしていた。そこで、お互いに自分の気持ちを自分の言葉で相手に伝えようとする態度を育てる単元を設定した。

単元の中で、日常生活で起こりそうないろいろな場面を劇やパネルシアターなどで提示し、「自分がその場面になったら、どんな気持ちになる？」と子どもたちに聞いた。そして、2～3人の小グループで話し合うことにした。その時に、この簡単表情カードを使用した。基本的な4つの気持ちを表す簡単表情カードを使い、自分や友だちの気持ちを知る手掛かりとし、自分の気持ちを相手にうまく伝えるためのツールとした。

「どんな気持ち？」を言葉に表すことは難しい子どもでも、簡単表情カードを選ぶことはできた。また、「どんな気持ち」を表す言葉を子どもたちから聞き出し、一覧表にして掲示しておいた。そうすることによって、自分の言葉で伝えることが難しい子どもたちも、簡単表情カードを選んで「悲しい」などの言葉をそえて、グループの友だちに伝えることができるようになった。

他の子どもたちも、自分の気持ちを言葉にしたり、掲示された言葉を見ながら一生懸命に気持ちを伝えたりすることができるようになった。また、なぜそう思ったのか、理由を話してもらったり、他の友だちが考えつかなかった伝え方をみんなに発

表してもらったりと、広げることができた。

その後、いろいろな役割を分担して、「自分だったらどう思うか？」「自分だったらどうするか？」を考えたり、相手に気持ちを伝える経験を積み重ねたりしていった。「自分の気持ちを相手に伝えるには勇気が必要だね」「でも、思いきって言ってみると、また、次の勇気がわいてくるね」と話し、勇気の象徴としての「なかよしマン」にパワーが充電されるというストーリーを展開した。そして、「なかよしマン」も子どもたちも、満足そうな顔になっていった。

この学習をとおして、日常でも「いいよ」「どうぞ」という暖かい言葉と気持ちで接することができ、いやな時は「いや」「やめて」と勇気をもって言うことの大切さを実感できるようになった。その始まりであり、きっかけになったのが簡単表情カードであった。

4 おわりに

知的障がいのある子どもたちは、自分の気持ちがわからず言葉で言えなかったり、相手の気持ちを読み取ったりすることに困難を抱えることが多い。しかし、表情カードなどの手掛かりがあれば、自分の気持ちを表しやすくなり、相手の気持ちを考えるヒントにもなっている。

今後、日常生活の中でも、もっと自分の気持ちを伝える際に、この簡単表情カードが活用できたらよいと思う。